

コミュニケーションを大切に、
最適かつ最高の住宅や店舗を
設計・デザインする。
植村康平建築設計事務所。
手掛けた建築物はもちろん、
商店街の活性化に向けた取り組みでも
注目を浴びる1級建築士で代表の
植村康平さんにお話を伺いました。

植村康平建築設計事務所

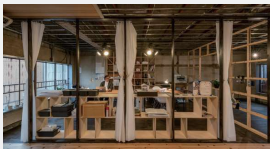
代表・UEMURA KOHEI

植村康平さん

Company Data | 会社概要

植村康平建築設計事務所

【創業】2015年
【所在地】名古屋市名東区西山本通2-23
ニシヤマガヤ2F
【TEL】052-734-2408
【URL】http://uemura-arch.com
【事業内容】建築・インテリアの設計、監理業務、
家具デザイン等に付帯する一切の業務



建築物だけでなく、 地域コミュニティまで設計する



2019年9月に名東区の西山商店街に、空き店舗再生プロジェクトとしてオープンした「ニシヤマガヤ」。
1Fは複合店舗となっており、焼菓子屋、花屋、珈琲屋が入っています。

お客様との対話から
真の要望を導き出し、
ベストな提案・設計を行なう

当事務所は2015年の設立以来、設計・デザインはもちろんのこと、お客様とのコミュニケーションに重きを置いて仕事をしてきました。お客様にとって住宅は、人生を左右するほどの大きな買い物です。ちよつとした認識のズレであったり、考え方が噛み合わなかったりすると、必ずどこかでうまくいかない部分が出てきてしまいます。そのため、打ち合わせだけでなく、何気ない会話の中で出てきたご家族の意見も可能な限り提案や設計に反映するように心がけています。
一括りに新築住宅といっても、私のような建築家がつくる注文住宅とハウスメーカーがつくる企画住宅が主にあり、両者の制作プロセスは大きく異なります。そのため、最初の打ち合わせで伺った要望を踏まえ、ハウスメーカーの企画住宅の方が合うと思ったお客様には、正直に伝える

一度ハウスメーカーの企画住宅を見ていただくようにしています。また、当事務所は新築だけでなくリノベーションにも対応しているため、住まいに関するご要望と悩みを共有しながら、ベストな方法をお客様に選んでいただくことが可能です。

最近では、不動産業者とファイナンシャルプランナーを加えた三者でチームを組み、情報を共有しながら、お客様の「要望」にかつた土地、物件探しと資金計画について一体的なサポートを始めました。円滑な業務進行と各項目の提案に広がりが生まれ、お選びいただける選択肢が増えたことで、お客様満足度のアップにもつながっています。さらには、「仕組み」の提案にも注力しています。要望通りの造形にするだけでなく、住む人や利用する人にとってどのような用途を組み込むと快適な生活になるのか、どのような運用方法だと利用しやすくなるのかといったソフト面の設計・デザインも行なっています。その代表例が、名東区の西山商店街における空き店舗再生プロジェクト「ニシヤマガヤ」です。



＼ 社名の由来 /

植村康平建築設計事務所
KOHEI LEMURA ARCHITECTS

責任感を持って仕事に取り組んでいくこと、自分の名前を掲げた分がやりやすい社名にしました。個人事業主ではありますが、ようやく自分の事務所を持つことができた実感が湧くとともに、社会の一員として認められた感じがして感慨深い気持ちになります。

＼ 愛用のアイテム紹介 /

スケッチブック



仕事の依頼をいただいた際に、アイデアを描き出して、設計する建築物のイメージを膨らませるための大切なアイテムです。ポケットサイズの小さなスケッチブックは、メモ帳として利用しています。

＼ 仕事で大切にしていることは /

お客様と信頼関係を築き、
期待以上の仕事をします。

依頼された通りに仕事をするのではなく、お客様の要望をしっかり受け止め、期待された量か上を越えていくような仕事を心掛けています。それにより、仕事をするたびに自分自身を成長させ続けることができます。



らーめん和屋

名鉄知多奥田駅の高架下の空き店舗をリノベーションしたラーメン店。駅前に賑わいが戻り、街の様子を変えることができた仕事です。店主の要望を受け、若い女性でも入りやすい店舗デザインにしています。



焼菓子 moegi-iro (モエキイロ)

ニシヤマナガヤ1Fに店を構え、妻がパティシエ兼店主を務める焼菓子屋。季節のフルーツを使用したスイーツが人気で、通年販売の「ピーカンナッツのタルト」が店の一押し商品となっています。



カドニワの家

第31回すまいる愛知住宅賞で佳作を受賞。道路に沿って開放的な“カドニワ”を設けたことで、道路から室内までが緩やかなグラデーションでつながり、どの部屋においても外部の心地良さを感じられる住宅です。



未完美術館

近隣にある椙山女学園大学の教員と生徒の手を借りて、ニシヤマナガヤの裏手にある小さな倉庫を地域の美術館へと改装中。未完成な美術館をコンセプトに、展示と改修を繰り返して、少しずつ形を変えていく予定です。

少子高齢化に伴って日本の人口は減少が続いていくことから、今後さらに中古住宅や空き店舗の増加が予想されます。また、新型コロナウイルス感染症は私たちの価値観を大きく変えました。都部郡から郊外に拠点を置く企業が増えていくことで、働く場所と生活する場所が均一化し、街の景色も変わっていくのではないのでしょうか。そういった意味で「ニシヤマナガヤ」は良いモデルケースとなるはずです。私の経験を活かし、空き店舗の再生を考えている商店街や同じ志を持った事業者にアドバイスするなどして、第2、第3の「ニシヤマナガヤ」をつくっていききたいと思います。

中古住宅や空き店舗に
新たな価値を見だし、
街づくりに貢献する

建築家として
豊かな暮らしと
街の未来までも設計する



ワークショップの参加と
名商への相談が
事業基盤の強化に

西山商店街のある西山エリアは、住宅街から近く、緑豊かな自然や公園が点在する魅力的な場所です。私の生活圏内でもあったので、空き店舗が目立つ閑散とした商店街の存在は以前から気になっていました。周辺環境に恵まれていることから、ちよっとした“ぎゅっ”さえあれば商店街を変えられると考えていたため、商店街が募集していた空き店舗再生プロジェクトに応募して、再生に力を取り組みを始めることにしました。

そもそも、空き店舗再生プロジェクトは、西山商店街振興組合が名古屋市長催の商店街活性化事業に応募して採択された取り組みで、私のほかにも商店街での事業展開と街づくりに興味のある様々な人たちが参加していました。そんな参加者たちが一堂に会した名古屋市長主催のワークショップでは、議論しながら具体的な事業プランを作成することから始まりました。当初は空き店舗内に私の建築設計事務所と妻の焼菓子屋を設けることしか考えていませんでしたが、ワークショップを進める中でほかにも仲間を集めて複合施設にするとか、シェアオフィスを設けるといったアイデアが出てきました。物件の広さから無理にならなると判断し、すぐにそのアイデアを取り入れ、仲間探しから運用方法の構築、リノベーションの設計、DIYな

どに着手しました。今振り返って考えると、従来の建築設計の枠を越えた非常に密度の高い仕事をする事ができたと思っています。

商店街にどのような店があると良いのか、地域の人にとってどのような場所のすべきなのかと考えた末に辿り着いたのが、美味しい焼菓子や珈琲を味わいながらくつろげる「街のリビング」のような場所でした。そして完成した「ニシヤマナガヤ」の1Fには、焼菓子屋、珈琲屋、花屋が店を構えたのに加え、2Fに私の事務所とオーダーキッチン手握えたレンタルスペースを設けました。オープンしてからというもの、非常に多くの方々に足を運んでいただき、「西山商店街に初めて来ました」「近くに素敵な店ができて嬉しい」「商店街の雰囲気が変わった」といった嬉しい言葉をいただいています。2Fに設けたレンタルスペースも様々な用途にご利用いただけており、ワークショップや勉強会、パーティーなどが開催され、これまでに無かつたつながりやコミュニティが誕生しています。

それらすべては名商の支援があったからだと思っています。事業者としての心構えから、事業計画の策定、補助金の申請方法など、色々と助けていただきました。「ニシヤマナガヤ」のオープンに向け、日本政策金融公庫から「商店街活性化資金」の融資を受けた際も、間を取り持っていたいただいたおかげでスムーズに事業資金を確保することができました。名商へ相談に行くと本当に良かったです。